

〔伊呂波字類抄末倫〕繼母マ、ハ、庶子母也、嫡母者嫡子之母也、並男、 娜同 繼父マ、チ、

〔令義解喪葬九〕凡服紀者、中繼母繼父同居、略中一月、

〔令集解喪葬四〕古記云、妾之男女謂父嫡妻爲嫡母、嫡母爲妻子、无報服也、俗云、麻麻母也、略中 古記云、母

之後夫爲繼父、繼父爲妻之前父、男女无報服也、繼父若不同居共財、不服也、俗云、麻麻父也、

〔松屋筆記九十四〕假父假母、

假父母をマ、といふは隨の義也、實の父母失て後、それに隨て出來し父母の義也、繼父母はたお

なじ隨を上にいへるは眞間の手兒女、足柄のま、の小菅など見え、遠江にコトノマ、ノ神社も

あり、土の隨意コトノマに崩落るがけの事也、

〔善庵隨筆〕生母にあらすして、子を養育する母をま、母といひ、生子にあらすして、養育を受ける子

をま、子といふ、ま、は養育の義にて、小兒に乳を飲付する、今の乳母の事なり、これを古へ乳付

けといふ、東鑑に、武衛頼朝卿乳付けの青女を召さる、摩々と號すとあるにて知るべし、これより

轉稱して、小兒の乳を飲むをま、と云ひ、今にては、小兒の飯を喫するをもま、と云ふことには

なりし、

〔古事記開化〕若倭根子日子大毘毘命、中娶庶母。伊賀迦色許賣命、生御子、御真木入日子印惠命、

〔古事記傳二十二〕庶母は、美麻々波々と訓べし、美は御和名抄に、繼父和名万々知々、繼母万々波

波、今の本には、万々波々と云字鏡に、嫡母万々波々、庶兄万々兄などあり、相照して心得べし、庶

は、繼母嫡母などとは異なれども、嫡と云庶と云繼と云は、漢國にての差別にてこそあれ、皇國

にては、其差別にはかゝらざす、たゞ非所生母を麻々母と云、非所生子を、麻々子と云り、されば

嫡母庶母繼母、みな麻々母なり、庶兄を万々兄と訓るは、非なり、

〔三代實錄清和十五〕貞觀十年二月十八日壬午、參議正四位下行右衛門督兼太皇太后大夫藤原朝臣良

繩卒、中良繩素性寬厚、不好花飾、中後母安部氏性悍忌、諸子皆排却、但至于良繩、殊以重愛、